安全保障資料　　２０１６．２．２０

ロシアの対北朝鮮政策（その２）
―ロシア、予想通り、独自の対北朝鮮制裁、発動せず。ロシア、中国を動かすかには？―

主要点
北朝鮮の核実験・ミサイル発射に対し、日本、米国及び韓国は独自の厳しい北朝鮮制裁を発動した。しかし、ロシア政府はこのほどロシア独自の制裁を発動することはないとの考えを表明した。ロシアのこの対応ぶりは予想した通りである。ロシア、中国を動かす新たなアイデアを検討しなければ、事態は今後も変わらない。そこで本稿では奇抜なアイデアを提示した。

１　ロシアの北朝鮮問題に対する論理

（１）北朝鮮の核及び弾道ミサイル開発について、ロシアは確かに強い懸念を示し自制を促している。そのモスクワの真意は？

①北朝鮮の核・ミサイル開発は、アメリカのブロック化政策（敵、味方の峻別化）を利することになる。それゆえ北朝鮮には自制させなければならない。

②北朝鮮とロシアの国境に火種を作ることは、アメリカを有利にさせる。

③北朝鮮が核・ミサイル開発を行うことで、北東アジアにおいてアメリカのミサイル防衛を強化させることになる。

（２）具体的（厳しい）制裁措置になると、腰が引けるのは何故か？

①北朝鮮は孤立すればするほど、一層核兵器を開発する。

②制裁でアメリカは北朝鮮の政権交代を起こそうとしているが、北朝鮮が崩壊すれば、多数の難民が発生する。難民はロシアや中国には必要ない。

また北朝鮮政権が崩壊すると、自国の国境付近に親米的な拡大韓国ができるが、その展望は全く受け入れられない。

③ロシアは国連安保理決議を超えた関係国独自の制裁には断固反対する。

もし、北朝鮮経済を圧迫し、大きな打撃を与えるような制裁を行えば、袋小路に追い詰められた北朝鮮は、韓国や日本を攻撃する方向に向かうかもしれないことを考えるべきだ。

（３）北朝鮮問題の解決の方策について

①韓半島問題の解決のためには、政治的外交的手段しかない。

②経済面では、北朝鮮経済を窒息させるような措置はせず、むしろ経済改革を促して普通の国へと変貌させるようにする。

③朝鮮戦争の休戦協定を平和協定に移行し、北朝鮮と米日韓の間に外交関係を樹立すべき。

④米国は北朝鮮と対話すべき。

⑤西側は、北朝鮮の「悪魔化」を止めて、北朝鮮に安全を保障すべき。

もし北朝鮮が望めば、平和的な宇宙開拓で北朝鮮の手助けをしたらいい。これは、北朝鮮を制裁でへとへとに疲れさせるよりも人道的で、より簡単な方法だ。

２　北朝鮮問題について、我が国とロシアの論理には決定的な溝

ロシアの北朝鮮問題の対応は、我が国など西側の対応とは決定的に違う。

ロシアは“北朝鮮の核・ミサイル開発問題は、アメリカにどのような影響を及ぼし”、その結果、いわばブーメラン効果として、“ロシアにどのような悪影響（不利益）が帰ってくるか？”という視点から北朝鮮問題（対策を含む）を考えている。具体的に言えば、北朝鮮政権が崩壊すると、朝鮮半島に親米派の拡大韓国が誕生するが、これは最悪のシナリオである。それゆえ、ロシアとしては北朝鮮を追い込む政策は決して取るべきでないと考えている。

３　我が国の対応―奇抜なアイデア

現状では、（西側よりははるかに北朝鮮と関係の深い）ロシアと中国を動かし、北朝鮮に核開発を断念させることは難しい。そこでこの事態進展のためにはアイデアが必要である。一つの方策は、ロシア及び中国の弱点を突くことである。両国は日本や韓国が核保有国になることを極めて懸念しているが、これが弱点である。これを利用する。

そこで、我が国（日本）は、「“自衛上”、北朝鮮の核・ミサイル開発の対抗手段として、核兵器保有を“検討する”」というアドバルーンを打ち上げるのである。

ロシア、中国は、これによって、そうさせないために、真面目に北朝鮮の核・ミサイル開発中止のための具体的行動（体制崩壊をもたらさないという制約下で、エネルギーの輸出制限の強化等）に動くだろう。彼等の北朝鮮政策は、政権崩壊を目指さないことから、我が国の国益にも叶っている。

新たなアイデアを出さなければ、（ロシア、中国という抜け道がある）制裁措置の強化だけでは事態はいつまでたっても変わらない。

北朝鮮による核実験や事実上の長距離弾道ミサイルの発射などを受けて、日本、米国及び韓国は独自の厳しい北朝鮮制裁を発動した。

しかし、ロシア政府はこのほど「国連安全保障理事会で承認された制裁のみを認める」として、ロシア独自の制裁を発動することはないとの考えを表明した。ロシアのこの北朝鮮問題に対する対応ぶりは予想した通りである[1]。

これに先立ち、東京とモスクワの外務省は東京で、北朝鮮による核実験や事実上の長距離弾道ミサイルの発射の問題についてハイレベル協議を行った。しかし、前に述べたことと照らし合わせると。結局、同協議はいわば両者の言い分を主張しあっただけということで終了したのではないか。

こうした状況をみれば、我が国は、我が国の国益を考慮しつつ、北朝鮮の核・ミサイル開発阻止に向けてどのようにするか、換言すれば北朝鮮政策に腰が引けたロシア、中国をどのようにして真面目に行動させるべきか、奇抜なアイデアでもよい、なんらかのアイデアを検討しなければ、事態は今後も変わらないだろう。そこで本稿では浅学菲才を顧みず、本稿の末尾にて奇抜なアイデアを提示することとした。

１　ロシアの北朝鮮問題に対する論理

まず、ロシアのこの対応ぶり（“厳しい制裁はしない”）であるが、何故、これは予想どおりであったのだろうか？

それはロシアの北朝鮮問題に対する考え方は、次のような論理から成り立っているからである。

（１）北朝鮮の核及び弾道ミサイル開発について、ロシアは確かに強い懸念を示し自制を促している。そのモスクワの真意は？

モスクワは、確かに北朝鮮の核・ミサイル開発問題については懸念し、強く自制を促す姿勢を示している。それは次のような思惑（論理）からである。

①モスクワは、北朝鮮の核・ミサイル開発は、アメリカのブロック化政策（敵、味方の峻別化）を利することになる。それゆえ北朝鮮には自制させなければならない[2]。

---

[1]　細部は、『安全保障資料　ロシアの対北朝鮮政策（その１）―ロシアの対北朝鮮政策：噛み合わぬロシアと西側の論理―』（2016.2.　14）（略）を参照。

[2]　*ロシア外務省*

②北朝鮮とロシアの国境に火種を作ることは、アメリカを有利にさせる[3]。

③北朝鮮が核・ミサイル開発を行うことで、北東アジアにおいてアメリカのミサイル防衛を強化させることになる[4]。

（２）具体的（厳しい）制裁措置になると、腰が引けるのは何故か？

それでは厳しい制裁措置を取ってもよさそうだが、実際には腰が引けてしまい、米国、日本など、西側が取る厳しい“制裁措置”には、逆に反対の姿勢すら示している。何故か？厳しい制裁措置は、ロシアに次のような影響をもたらし、ロシアにとって好ましいものではないと考えているからである。

①北朝鮮は孤立すればするほど、一層核兵器を開発する[5]。

②制裁でアメリカは北朝鮮の政権交代を起こそうとしているが[6]、北朝鮮が崩壊したら、北朝鮮からの難民が数万人、数十万人発生するかもしれない。そうした難民はロシアや中国には必要ない[7]。

またロシアや中国にとって、北朝鮮政権が崩壊し、韓国に吸収され、自国の国境付近に親米的な国家ができる展望は全く受け入れられるものではない[8]。

③ロシアは国連安保理決議を超えた関係国独自の制裁には断固反対する[9]。

もし、北朝鮮経済を圧迫し、大きな打撃を与えるような制裁を行えば、袋小路に追い詰められた北朝鮮は、すでに保有している手段を使って韓国や日本を攻撃する方向に向かうかもしれない。それを考えるべきだ[10]。

（３）北朝鮮問題の解決の方策について

そこで、ロシアは、取るべき北朝鮮問題の解決策は、次のようなものになるべきだと考えている。

①韓半島問題の解決のためには、政治的外交的手段（６カ国協議プロセスと、地域の平和および安全に関する信頼性の高いシステムの形成に向けた対話を早急に開始すること）しかない[11]。

---

3 *ロシア科学アカデミー経済学研究所ロシア戦略研究所長ゲオルギー・トローラヤ*
4 *ロシア外務省*
5 *Ibid.*
6 *Ibid.*
7 *モスクワ国際関係大学国際問題研究所上級研究員アンドレイ・イワノフ*
8 *Ibid.*
9 *ロシア外務省*
10 *アンドレイ・イワノフ*
11 *ロシア外務省*

②経済面では、北朝鮮経済を窒息させるような措置はせず、むしろ経済改革を促して普通の国へと変貌させるようにする[12]。

③朝鮮戦争の休戦協定を平和協定に移行し、北朝鮮と米日韓の間に外交関係を樹立すべきである[13]。

④米国は北朝鮮と対話すべきである[14]。

⑤西側は、北朝鮮の「悪魔化」を止めて、北朝鮮に安全を保障するべきだ。そしてもし北朝鮮が望むのであれば、平和的な宇宙開拓で北朝鮮の手助けをしたらいい。人工衛星を仕上げ、軌道へ投入することで北朝鮮を支援することはできる。これは、北朝鮮を制裁でへとへとに疲れさせるよりも人道的で、より簡単な方法だ[15]。

２　北朝鮮問題について、我が国とロシアの論理には決定的な溝

ロシア（人）の考える北朝鮮問題の対応は、前に述べたとおりであるが、こうしてみると我が国など西側が考える対応策とは決定的に違う。

ロシアは“北朝鮮の核・ミサイル開発問題は、アメリカにどのような影響を及ぼし”、その結果、いわばブーメラン効果として、“ロシアにどのような悪影響（不利益）が帰ってくるか？”という視点から北朝鮮問題（対策を含む）を考えている。つまり、ロシアの北朝鮮政策の先には、アメリカへの対応とその反応についての思惑が最優先で考慮されているのである。

具体的に言えば、北朝鮮を追い込むと同政権が崩壊し、その結果、朝鮮半島に親米派の拡大韓国がロシアの隣接国として誕生する。これはロシアにとって最悪のシナリオとなる。それゆえ、ロシアとしては北朝鮮を追い込む政策は決して取るべきでないと考えているのである。

ロシア人の専門家の中には、“日本と韓国は、既に北朝鮮のミサイルの射程圏内に入っているから、両国が北朝鮮の核・ミサイルについて懸念するのはよく分かる”と、日本・韓国の軍事的安全保障の懸念に理解を示す専門家もいる。しか

12　*ロシア科学アカデミー東洋学研究所朝鮮研究室長アレクサンドル・ヴォロンツォフ*
13　*Ibid.*
14　*ゲオルギー・トローラヤ*
15　*アンドレイ・イワノフ*

し、そうした彼らでも日本が核保有をすることには警戒心を示している。
「日本の核保有は何の役にも立たない、核紛争を引き起こすだけだ[16]。」と。

それどころか、前にも述べたように、「北朝鮮が望むのであれば、平和的な宇宙開拓で北朝鮮を手助けすればいい。人工衛星を仕上げ、軌道へ投入することで北朝鮮を支援することはできる。これは、北朝鮮を制裁でへとへとに疲れさせるよりも人道的で、より簡単な方法だ」と、むしろ北朝鮮擁護ともみられる論理を展開するロシア人専門家もいる[17]。

３　我が国の対応―奇抜なアイデア

我が国は、以上の諸点からも北朝鮮問題に関するロシア（同様の中国）の対応については、次の点を考慮しておくべきであろう。
第一に、ロシア（中国）の北朝鮮政策には多大な期待を抱かないほうが良いということである。ロシア（中国）が、我が国と足並みをそろえて北朝鮮政策を取ることができると考えるのはナンセンスである。

第二に、ただし我が国も北朝鮮指導部を追い詰める政策は取るべきでない。北朝鮮の政権が崩壊し、拡大韓国が出現するのは我が国の国益上、必ずしも好ましい状況ではないからである（この点についてはロシアと共有する一面がある）。

この状況では、北朝鮮政策（核・ミサイル開発に対する対応策）として、ロシアと中国を動かし、北朝鮮が核開発を断念せざるを得ない状況に追い込むのは難しい。したがって、事態の解決には現状のままでよいはずはなく、なんらかのアイデアを出さなければ、その進展は期待できない。

一つの方策は、（西側よりははるかに北朝鮮と関係の深い）ロシア及び中国の弱点を突くことである（この弱点を突くことは米国を一層真剣に動かすことにもなる）。

ではロシア及び中国の弱点とは、何か？
これらの国々は日本や韓国が核保有国になることを極めて懸念している。これが彼らの弱点である。これを利用するのである。
実際、報道で“韓国では北朝鮮の核開発の脅威への反応として、独自の核兵器

16　*Ibid.*
17　*Ibid.*

を製造する必要性について話し合われるようになっている”と伝えられた。ロシア、中国、そして米国はこうした動きが日本にも波及することを懸念していることはまず間違いない。

ロシアと中国は、北朝鮮のミサイルに対する自衛策として在韓米軍がミサイル防衛を強化することにさえ、非常にセンシティブな反応を示している[18]。

そこで、我が国（日本）は、「“自衛上”、北朝鮮の核・ミサイル開発の対抗手段として、核兵器保有を“検討する”」というアドバルーンを打ち上げるのである。日本の核兵器保有を恐れるロシア、中国は、そうさせないために、慌てて真面目に北朝鮮の核・ミサイル開発の中止のための具体的行動（体制崩壊をもたらさないという制約下での動きとして、エネルギーの輸出制限の強化等）に出るだろう（米国も動く）。

“北朝鮮体制の存続”と、“核兵器開発の中止を求める”、この二つの難しいアンビバレントな条件を満たす対抗策として、「日本は“自衛手段”として核保有を“検討する””」というアドバルーンは、一考に値するのではなかろうか。

勿論、「自衛手段として、核兵器開発を“検討する”」と、曖昧なアドバルーン（核兵器を“開発する”とは言わない。）を打ち上げるのは、一部議員なり、マスメディア、専門家で[19]、我が国政府はそれを否定する役割を担えばよい。

要はロシア、中国が最も懸念する弱点を逆手にとり、彼等が真剣に北朝鮮の核開発阻止に動かなければ、日本は自衛手段として、核兵器保有を検討する可能性があると懸念させる。それによって両国をして真剣に北朝鮮の核開発の自制を強力に促す行動を取らざるを得なくなるように追い込むのである。それを狙うのである

幸いなことは彼等の北朝鮮政策は、政権崩壊を目指さないことから、我が国の国益にも叶っている。

何らかの新たなアイデアを出さなければ、（ロシア、中国という抜け道がある）制裁措置の強化だけでは事態はいつまでたっても変わらない。

18　ロシア外務省は 2 月 10 日の声明で、「米国は（北朝鮮のミサイル発射を）韓国への THAAD 配備に利用している」と述べ、警戒感をあらわにした。米韓両国は「THAAD」の韓国配備に向けた協議開始で合意。

19　政府関係者が依頼する等、工夫することだ。